

日々想ふ

今、畑には柿と栗が収穫を待っている。実りの秋だ。

そこで、農

ついでに前まで緑色だった田んぼが、美しい黄金色（こがねいろ）の景色になった。

強い風雨や暑い日を楽しみ、立派に成長した稲穂が頭（こうべ）を垂れているのを見ると、いつも自分の姿勢を見つめ直す。「実るほど頭を垂れる稲穂かな」は座右の銘である。

稲刈りも終盤で、早場米の産地では、もう新米を食っている。私もその一人で、米だけでなく野菜も旬のものや浸水を防ぐ機能がある（国土の保全機能）。地下水を豊かにする機能や川の流れを安定させる。

せる機能もある（水源のかん養機能）。子供がバケツとタモを持つているのを目にするところがあるが、生物の生息の場所にもなっている（自然環境の保全機能）。

農地のことを考える

（秋の夜長に月を愛でて）

鈴木 茂基

色は、人の心をなませる働きや、千枚田のように観光資源になったりする（景観の形成機能）。地域の行事や祭りに関わりをもつて、長く守り伝えられてきたものが多い（文化の伝承機能）。

農業白書によると、農村地域で発生している課題のトップは「空き家の増加」で、その次が「耕作放棄地の増大」である。そのため、住宅だけでなく、農地のことについて相談も多い。

管理ができないから何とかしたい。売買、賃借、相続、転用、課税、経済的機能を知ると、農地の価値は単に生産性だけでなく、人間が生きていくために必要な「公共的な資源」として見るべきだということが分かる。

今、この農地について悩みを抱えている人が多い。農業白書によると、農地を管理する責任は残る（民法940条）。

三重県ではこれより先に、「みえ森と緑の県民税」が平成26年度から導入され、様々な事業に活用されている。農地も大切な公共的資源であるのに、守らなくていいの？

相続、転用、課税、経済的機能を知ると、農地の価値は単に生産性だけでなく、人間が生きていくために必要な「公共的な資源」として見るべきだということが分かる。

結局、近未来の農村地域の景色は、相続放棄され管理責任も果たされない空き家や耕作放棄地が至る所に見られ、さながら機能喪失した荒廃農地が混ざったパッチワークのようになる。

9月は中秋の名月、米粉でつくった月見団子を供え、お月見をするのが日本の文化。秋の夜長に月を愛でる。いつまでも大切にしたい美しい風習、そして日々おいしい食糧物がいただけることに感謝。これも農地が守られてこそ。

前川農産が新米900kg寄贈
市内の児童養護施設へ

話した。前業泰幸市長は感謝の言葉を述べ、「後継者不足で耕作放棄地が増えるなか、津市の農業のけん引役として活躍していただいている」と話し、市内5つの児童養護施設へ配布することになった。

津市安東町の（株）前川農産（前川和彦代表取締役）は9月24日（火）、今年収穫したコシヒカリの新米ウルチ米とモチ米あわせて900キロを「津市の福祉のために役立てて」と津市に贈った。平成26年から毎年続けている社会貢献事業で、6回目。

この日、津市本庁舎を訪れた前川代表と同社社員の宮田征典さんは「子どもたちが餅つきを楽しみにしているのを見て、今年はモチ米の量を増やしました」と。

学生ジャズ・フェス2019 東橋内中&南郊中が受賞
3人がナイスプレーヤー賞！

神戸市で8月16日に開かれた「第35回JAPANESE STUDENT JAZZ FESTIVAL 2019」で、津市の東橋内中学校と南郊中学校の吹奏楽部が最高賞の神戸市長賞と優秀賞に輝いた。さらに、3人がナイスプレーヤー賞を受賞した。両校の吹奏楽部員たちが9月2日（月）、津市本庁舎を訪れて前業泰幸市長と倉田幸則津市教育長に報告した。

同大会には中部・関西の中学17校（うち三重県は2校のみ）が参加。2校は昨年に続き2回目出場。ナイスプレーヤー賞に、村上愛子さん（東橋内中）がアルトサックス部門、吉川開智さん（同）がドラム部門、大橋沙英さん（南郊中）がテナーサックス部門でそれぞれ選ばれた。出場者全員の中から選ばれた5人のうち3人が津市の生徒という快挙である。部員たちは「緊張したが、最高の演奏だった」「練習時間が少ない中、合宿で一体感が増した。声を掛け合って気持ちを高めたい」と喜びを語った。

日々の点検で事故防止を！

久居一志自動車整備組合マイカー点検教室

久居一志自動車整備組合は9月28日（土）、津市久居野村町の久居総合体育館で恒例のマイカー点検教室を開催した。学科と実技の講習があり、41人が参加した。



は「普段から点検を怠っていると事故につながる」と、新しいブレーキパッドと使い込んだブレーキパッドの見本を見せ、「命に係わることだから」と注意を促し、「溝がないツルツルのタイヤで走ると雨の日など特にスリップして危険です」と定期点検の重要性を説明した。

続いて実技講習があった。参加者はエプロンと軍手を身に着けて、実際に車のボンネットを開けエンジンルームの点検をしたり、ブレーキの効き具合などチェックシートに従って点検した。



津市島崎町の津地区医師会館で9月8日（日）、ソフリエみえのおじいちゃんとおばあちゃんと一緒に遊ぶイベントが催された。津地区医師会主催、三重県看護専門学校・津市観光協会・ソフリエみえ共催、津市・三重県保健所後援。36回目。

津高太鼓の演奏で開場、小学1年生から4年生の男女児童20人が見事なパチパチを披露した。1年生は春から練習を始めた。初舞台「ソーレツ」の黄色いかけ声で盛り上がりがあった。

ソフリエみえの孫育て応援
紙ごま、竹細工、折り紙に夢中！
津地区医師会「市民健康広場」

ソフリエみえによる「工作体験」では、紙の「コマ」、竹細工の「カンブカ」や折り紙で作る「腹ペコあおむし」に夢中で取り組んでいた。